

2021/07/02

---

## 数学演習IX・X 柳田クラス

### 第9回 Chapter 7 Enumeration Under Group Action (群作用がある場合の数え上げ, その2/2)

---

柳田 伸太郎

このスライドはNUCTの「リソース」においてあります.

Zoomに自分の苗字と名前の両方が表示されるようにして下さい.

## 7.4 Pólyaの定理の証明

有限集合  $X$  への部分群  $G \subset \mathfrak{S}_X$  の作用を考え、色の集合を  $C = \{r_1, r_2, \dots\}$  とし、 $f: X \rightarrow C$  で色付けを表す。  $i_1, i_2, \dots \in \mathbb{N}$  に対して

$$\kappa(i_1, i_2, \dots) := |\{f: X \rightarrow C \mid |f^{-1}(r_j)| = i_j, \forall j = 1, 2, \dots\} / G| \quad (7.4.1)$$

とする。つまり、これは各  $r_j \in C$  を  $i_j$  回用いるような色付け  $f$  達を、 $G$  で移りあうものは同一視して数え上げたものである。そして  $C$  の元  $r_j$  達を (可換な) 変数として用いて、次の母関数を考える:

$$F_G(C) := \sum_{i_1, i_2, \dots \in \mathbb{N}} \kappa(i_1, i_2, \dots) r_1^{i_1} r_2^{i_2} \cdots \quad (7.4.2)$$

$n := |X|$  とする。  $\pi \in \mathfrak{S}_X$  をサイクルの積で  $\pi = \sigma_1 \sigma_2 \cdots \sigma_l$  と表した時に長さ  $i$  のサイクルが  $c_i$  個現れる場合、

$$c_i(\pi) := c_i, \quad \text{type}(\pi) := (c_1, c_2, \dots, c_n) \quad (7.4.3)$$

と書き、 $\text{type}(\pi)$  を  $\pi$  の**サイクルタイプ**と呼ぶ。

**発表用問題 7.6.** 任意の二元  $\pi, \rho \in \mathfrak{S}_n$  について  $\pi$  と  $\rho$  は共役  $\iff \text{type}(\pi) = \text{type}(\rho)$ .

この  $\text{type}(\pi) = (c_1, c_2, \dots, c_n)$  を用いて, 可換な変数  $z_1, z_2, \dots, z_n$  の単項式  $Z_\pi$  を

$$Z_\pi = Z_\pi(z_1, z_2, \dots, z_n) := z_1^{c_1} z_2^{c_2} \cdots z_n^{c_n} \quad (7.4.4)$$

で定め, 更に部分群  $G \subseteq \mathfrak{S}_X$  に対して多項式  $Z_G$  を次で定める:

$$Z_G = Z_G(z_1, z_2, \dots, z_n) := \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} Z_\pi. \quad (7.4.5)$$

**定理 7.7 (Pólyaの定理).** 以上の記号のもと,

$$F_G(C) = Z_G(p_1[C], p_2[C], \dots, p_n[C]), \quad p_k[C] := r_1^k + r_2^k + \cdots.$$

**例 7.8.**  $X$  は正方形の頂点集合で  $G$  が4次巡回群の場合を考える. 色は全部で4色として,  $C = \{r_1, r_2, r_3, r_4\}$  とすると, Pólyaの定理 7.7から

$$\begin{aligned} & F_G(r_1, r_2, r_3, r_4) \\ &= \frac{1}{4} \left( (r_1 + r_2 + r_3 + r_4)^4 + (r_1^2 + r_2^2 + r_3^2 + r_4^2)^2 + 2(r_1^4 + r_2^4 + r_3^4 + r_4^4) \right) \\ &= (r_1^4 + \cdots) + (r_1^3 r_2 + \cdots) + 2(r_1^2 r_2^2 + \cdots) + 3(r_1^2 r_2 r_3 + \cdots) + 6r_1 r_2 r_3 r_4. \end{aligned}$$

Pólyaの定理 7.7の証明.  $n := |X|$  とし,  $I := (i_1, i_2, \dots)$ ,  $i_j \in \mathbb{N}$ ,  $i_1 + i_2 + \dots = n$  を一つ取って固定する. この  $I$  に対し

$$\mathcal{C}_I := \{f: X \rightarrow C \mid |f^{-1}(r_j)| = i_j, \forall j = 1, 2, \dots\}$$

とすれば,  $G$  の  $\{f: X \rightarrow C\}$  上の作用は  $\mathcal{C}_I$  を保ち,  $\kappa$  と母関数の定義 (7.4.1), (7.4.2) より

$$F_G(C) = \sum_I |\mathcal{C}_I/G| r_1^{i_1} r_2^{i_2} \dots$$

各  $\pi \in G$  に対して  $\text{Fix}(\pi_I) := \{f \in \mathcal{C}_I \mid \pi.f = f\}$  とすると, Burnsideの補題 7.2から

$$|\mathcal{C}_I/G| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\pi_I)|.$$

$|\text{Fix}(\pi_I)|$  を計算したい.  $f: X \rightarrow C$  が  $f \in \text{Fix}(\pi_I)$  となる為には次の二条件が必要十分.

(a)  $\pi$  をサイクルの積で  $\pi = \sigma_1 \sigma_2 \dots$  と表した時に, 各サイクル

$\sigma_k = (x_1^{(k)}, x_2^{(k)}, \dots, x_{l_k}^{(k)})$  に現れる  $x_l^{(k)} \in X$  達は同一の色で色付けられる, つまり

$$f(x_1^{(k)}) = f(x_2^{(k)}) = \dots = f(x_{l_k}^{(k)}).$$

(b) 各  $j = 1, 2, \dots$  に対して  $|f^{-1}(r_j)| = i_j$ .

ここで(7.4.3)の $c_j(\pi)$ を用いて

$$H_\pi := \prod_{j=1}^n p_j[C]^{c_j(\pi)} = \prod_{j=1}^n (r_1^j + r_2^j + \dots)^{c_j(\pi)} \quad (7.4.6)$$

を考える. この多項式を展開した時の単項式 $r_1^{i_1} r_2^{i_2} \dots$ の係数を求めると, 条件(a)と(b)を使うことで,  $|\text{Fix}(\pi_I)|$ と等しいことが分かる (詳細は略).

以上より

$$H_\pi = \sum_I |\text{Fix}(\pi_I)| r_1^{i_1} r_2^{i_2} \dots$$

あとは母関数の定義 (7.4.2) と (7.4.4) 及び (7.4.5) を思い出せば

$$\begin{aligned} F_G(C) &= \sum_I |\mathcal{C}_I/G| r_1^{i_1} r_2^{i_2} \dots = \sum_I \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\pi_I)| r_1^{i_1} r_2^{i_2} \dots \\ &= \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} H_\pi = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} Z_\pi(p_1[C], p_2[C], \dots) = Z_G(p_1[C], p_2[C], \dots). \end{aligned} \quad (7.4.7)$$

□

## 7.5 対称群の共役類の個数

Pólyaの定理 7.7 で  $G = \mathfrak{S}_X$  の場合を考えよう.  $l := |X|$  と書くと  $G \simeq \mathfrak{S}_l$  で, この場合の  $F_{\mathfrak{S}_l}(C)$  は区別しない  $l$  個のものを色  $C$  を使って色付ける場合の数である. 定理の証明中の (7.4.6) と (7.4.7) から,  $F_{\mathfrak{S}_l}$  は次で与えられる.

$$F_{\mathfrak{S}_l}(C) = \frac{1}{l!} \sum_{\pi \in \mathfrak{S}_l} H_{\pi} = \frac{1}{l!} \sum_{\pi \in \mathfrak{S}_l} \prod_{j=1}^l (r_1^j + r_2^j + \dots)^{c_j(\pi)}. \quad (7.5.1)$$

例 7.11. (7.5.1) を  $l = 1, 2, 3, 4$  の場合書き出すと,  $p_k := r_1^k + r_2^k + \dots$  として,

$$F_{\mathfrak{S}_1}(C) = H_e = p_1,$$

$$F_{\mathfrak{S}_2}(C) = \frac{1}{2}(H_e + H_{(1,2)}) = \frac{1}{2}(p_1^2 + p_2),$$

$$F_{\mathfrak{S}_3}(C) = \frac{1}{6}(H_e + H_{(1,2)} + H_{(1,3)} + H_{(2,3)} + H_{(1,2,3)} + H_{(1,3,2)}) = \frac{1}{6}(p_1^3 + 3p_1p_2 + 2p_3),$$

$$\begin{aligned} F_{\mathfrak{S}_4}(C) &= \frac{1}{24} \left( H_e + \sum_{1 \leq i < j \leq 4} H_{(i,j)} + H_{(1,2)(3,4)} + H_{(1,3)(2,4)} + H_{(1,4)(2,3)} \right. \\ &\quad \left. + \sum_{1 \leq i < j < k \leq 4} (H_{(i,j,k)} + H_{(i,k,j)}) + \sum_{2 \leq i \neq j \neq k \leq 4} H_{(1,i,j,k)} \right) \\ &= \frac{1}{24} (p_1^4 + 6p_1^2p_2 + 3p_2^2 + 8p_1p_3 + 6p_4). \end{aligned}$$

一方,  $F_{\mathfrak{S}_l}(C)$  は区別しない  $l$  個のものを色  $C$  を使って色付ける場合の数だから, 直接

$$F_{\mathfrak{S}_l}(C) = \sum_{i_1+i_2+\dots=l} r_1^{i_1} r_2^{i_2} \dots \quad (7.5.2)$$

とも計算できる. 後の為に  $F_{\mathfrak{S}_l}(C)$  の母関数を与えておこう.

$$\sum_{l \geq 0} F_{\mathfrak{S}_l}(C) x^l = \frac{1}{(1-r_1x)(1-r_2x)\dots}. \quad (7.5.3)$$

但し右辺は  $x$  の冪級数として  $\frac{1}{1-x} = 1 + x + x^2 + \dots$  のように展開したものとみなす.

**発表用問題 7.10.** (7.5.2) を使って (7.5.3) を示せ.

(7.5.1) と (7.5.2) から次の等式が得られる.

$$\sum_{\pi \in \mathfrak{S}_l} \prod_{j=1}^l (r_1^j + r_2^j + \dots)^{c_j(\pi)} = l! \sum_{i_1+i_2+\dots=l} r_1^{i_1} r_2^{i_2} \dots$$

この等式の意味を考えてみよう. 数列  $c = (c_1, c_2, \dots)$ ,  $c_i \in \mathbb{N}$ ,  $\sum_{j=1}^l c_j = l$  が与えられたとして, 両辺の係数について

$$(r_1^{c_1} r_2^{c_2} \dots \text{の係数}) = |\{\pi \in \mathfrak{S}_l \mid \text{type}(\pi) = c\}|$$

となることに注意する. 但し  $\text{type}(\pi)$  は  $\pi$  のサイクルタイプ (7.4.3). 問題 7.6 よりサイクルタイプは対称群  $\mathfrak{S}_l$  の共役類と同一視できるから,

$$(r_1^{c_1} r_2^{c_2} \cdots \text{の係数}) = |X_c|, \quad X_c := (\text{サイクルタイプ } c \text{ に対応する } \mathfrak{S}_l \text{ の共役類})$$

となる. この数の明示式が以下の定理 7.12 で与えられる.

**定理 7.12.** 正整数  $l \in \mathbb{Z}_{\geq 1}$  を固定し, 数列  $c = (c_1, c_2, \dots)$ ,  $c_j \in \mathbb{N}$ ,  $\sum_{j \geq 1} j c_j = l$  が一つ与えられたとする. この時, サイクルタイプが  $c$  であるような  $\mathfrak{S}_l$  の元の個数  $|X_c|$  は

$$|X_c| = \frac{l!}{1^{c_1} c_1! 2^{c_2} c_2! \cdots}.$$

証明. 略. □

最後に (7.4.5) の多項式  $Z_{\mathfrak{S}_l}$  の母関数を求めよう:

$$Z_{\mathfrak{S}_l}(z_1, z_2, \dots) = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in \mathfrak{S}_l} z_1^{c_1(\pi)} z_2^{c_2(\pi)} \cdots.$$

**定理 7.13.**

$$\sum_{l \geq 0} Z_{\mathfrak{S}_l}(z_1, z_2, \dots) x^l = \exp\left(z_1 x + \frac{1}{2} z_2 x^2 + \frac{1}{3} z_3 x^3 + \cdots\right).$$



証明. テキストの証明 [S, 7.13 Theorem] とは別の方法で示す. (7.5.3) と Pólya の定理 7.7 から,  $p_k = p_k[C] = r_1^k + r_2^k + \dots$  として

$$\sum_{l \geq 0} Z_G(p_1, p_2, \dots) x^l = \prod_{j \geq 1} \frac{1}{1 - r_j x}.$$

ここで下の問題 7.11 から冪級数の等式

$$\frac{1}{1 - x} = \exp\left(\sum_{n \geq 1} \frac{1}{n} x^n\right) \quad (7.5.4)$$

が成立するので,

$$\begin{aligned} \prod_{j \geq 1} \frac{1}{1 - r_j x} &= \prod_{i \geq 1} \exp\left(\sum_{n \geq 1} \frac{1}{n} (r_i x)^n\right) = \exp\left(\sum_{i \geq 1} \sum_{n \geq 1} \frac{1}{n} (r_i x)^n\right) = \exp\left(\sum_{n \geq 1} \sum_{i \geq 1} \frac{1}{n} (r_i x)^n\right) \\ &= \exp\left(\sum_{n \geq 1} \frac{1}{n} \sum_{i \geq 1} r_i^n x^n\right) = \exp\left(\sum_{n \geq 1} \frac{1}{n} p_n x^n\right) \end{aligned}$$

$p_1, p_2, \dots$  を  $z_1, z_2, \dots$  に置き換えて結論が得られる. □

**発表用問題 7.11.**  $f(x) := \frac{1}{1-x}$  の対数微分  $\frac{d}{dx} \log f(x)$  を考えることで (7.5.4) を導け.

## レポート問題9 & 次回について

---

### 全般的な注意

- 講義ノートのp.56に**レポート問題9**があります。  
**締切は7/09の13時**です。NUCTで提出して下さい。
- スマートフォン等でスキャンしたレポートは、PDFに変換して頂けると助かります。  
変換方法はNUCT「リソース」の「スキャンファイルのPDF変換.pdf」参照。

### 次回について.

- 次回は**7/09 (金)**です。  
一コマ目 (09:30–10:30) は**§8 Young盤**を説明します。  
二コマ目 (10:45–11:45) は今回説明した**§7 後半の発表用問題**について、  
希望者に解答を発表してもらいます。

一コマ目はここまでです.